

別紙

株式会社明治 広島工場温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社 明治 広島工場

(2) 事業所の所在地

広島県安芸郡海田町畝2丁目14-26

(3) 業種

食料品製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成22(2010)年度を基準年度とし、平成23(2011)年度から平成27(2015)年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1、基本理念

当社は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。そのために、地球環境と事業活動との調和を図り、環境に配慮した企業経営を推進していきます。

特に、商品の設計から廃棄に至るライフサイクル全般およびあらゆる事業活動において、生産性の向上、諸資源、省エネルギーを推進し、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2、方針

- ・ 省エネルギー、省資源の推進
- ・ 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進
- ・ 社会との共生およびコミュニケーション
- ・ 環境マインドの醸成

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成22年度	直近年度 平成23年度
二酸化炭素		6471	6080

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成22年度	直近年度 平成23年度
二酸化炭素			

【その他温室効果ガス】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成22年度	直近年度 平成23年度
メタン		0.01	0.005
一酸化二窒素		0.004	0.002
HFC PFC SF ₆			

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成22年度)	削減目標		目標年度 (平成27年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	6471	10.0	647	5824
非エネルギー起源CO ₂				
メタン	0.01	0	0	0.01
一酸化二窒素	0.004	0	0	0.004
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計	6471	10.0	647	5824
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ は、排出量年2.0%の削減率 その他(メタン、一酸化二窒素)は、生産活動上削減できない項目。 電気は、中国電力㈱の実排出係数を使用			

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)							
目標設定の考え方							

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	電気使用量の削減	電気使用量を、年間2%削減 ※5年で10%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・契約電力の見直し（毎年） ・100アイスビルダー冬場（12-2月）に能力1/2運転 ・チルドポンプインバーター化 ・冷蔵庫照明のLED化 ・排水処理、返送汚泥ポンプのインバーター化 ・エアコンの運転制御変更 ・冷凍機へのダブル凝縮システム導入 ・アイスビルダーの攪拌停止 ・原料冷蔵庫2重扉化 ・タンクブローア間欠運転 ・コンベアの停止時間の短縮 ・殺菌均質機の停止開始時間の短縮 ・高能力ポンプのインバーター化 ・生産条件変更による省エネ
2	燃料使用量の削減	重油の使用量を、年間2%削減 ※5年で10%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリング停止の徹底管理 ・殺菌機への保温カバー設置 ・ボイラー重油への添加剤投入 ・高効率ボイラーへの設備更新検討 ・ドレン水の回収利用
3			
4			

※原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

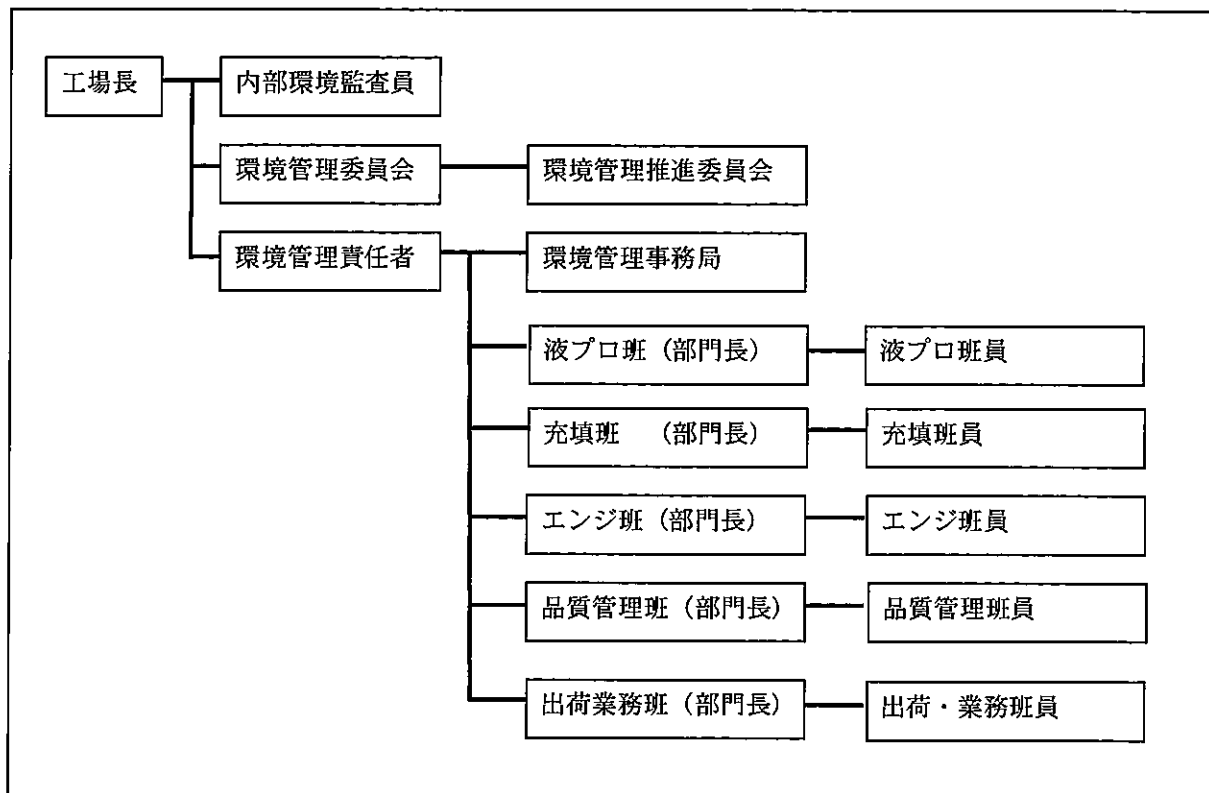
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

環境管理事務局長（エンジ係長）、環境推進委員、エンジ係員を中心として、毎年温室効果ガスの削減案（特に、電力・重油削減）を計画し、実施する。

エネルギー使用量および取り組み成果を、毎月の環境管理委員会および原価検討会にて報告する。見直しを図り、継続的な活動を進める。

また、実施状況については、本社CSR推進部へ報告し本社より公表する。

(3) 計画書等の公表

毎年度発行するCSR報告書において、会社全体としての推進状況を掲載する。

以上